

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600534		
法人名	特定非営利活動法人あたか		
事業所名	グループホームあたか		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2番地		
自己評価作成日	平成24年7月6日	評価結果確定日	平成24年7月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあたかは、自然豊かな山里にあります。耳を澄ませば、鳥のさえずりが聴こえます。窓からは、緑いっぱい山々が見られます。敷地内の畑で採れた野菜達が、毎日の食卓を彩ります。利用者みなさんは、体全体で季節を感じながら日々ゆったりと過ごしておられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所7年目のグループホームあたかは、開所時からの入居者もあり、高齢化とともに移動能力の低下等で重度化しつつある。朝礼時に、社是や笑顔の心の10箇条、利用者に関わるうえでの留意点を復唱しながら、日々入居者に寄り添ったケアを実践しているが、管理者の提案でより具体的で実践しやすい理念を作成予定である。広い玄関や廊下を活用した体操やアクティビティ、歩行訓練が継続され、四方から使える流し台やテーブルを活用した食器洗いや食材の下ごしらえは入居者の喜楽の場となっている。また、申し送り内容の徹底や、実践者研修や管理者研修受講で人材育成の取り組みで、さらなるチームケアの実践が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームあたか**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、【社是・笑顔の心の10箇条・利用者と関わるうえでの留意点】の復唱を行い、グループホームあたかの理念を職員全員で共有できるように、ひとりひとりが心掛けている。	ホーム開所時の理念の実践に努めているが、今回地域密着型サービスとして、全職員でより具体的な理念の作成をしたいと管理者は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加したり、食材の買い出し等で地元の道の駅を利用し、地域住民との関わりを持てるようにしている。	入居者の家族から紹介されたボランティアによるクラシックコンサートは近隣からも4名が参加され、好評であった。神幸祭の見学に出かけたり、ホーム玄関前で盆踊りが披露されたりと、地域との交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催のイベント等に地域住民の参加を呼びかけ、認知症の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者家族の意見を尊重し、頂いた意見については、直ちに改善策を話し合っている。	地域代表の民生委員、家族、入居者、行政担当者等の参加で、定期的に会議が開催され、ホーム行事等を報告している。近々開催の会議では、近親者が亡くなった入居者の介護計画の同意に関して相談する予定である。会議録は閲覧できるように、事務所前に整備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、町の高齢者福祉課の職員が参加しており、情報の交換を行っている。	地域包括支援センターから入居状況の連絡を依頼されているので、情報提供等で連携する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全出入り口にセンサーとブザーを設置し、昼間は極力施錠せず、開放的なホームになるように心掛けている。	管理者が朝礼時に「言葉による拘束」について、伝達している。出入口はセンサーやブザーが活用され、外出傾向のある入居者に目配りや気配りをしている。夜間窓から外に出られた入居者もあり、家族に相談し、夜間のみ窓にアルミ戸を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会等で、高齢者虐待について話し合い、職員同士が互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば積極的に参加し、ミーティングや研修等で情報を共有し、必要な利用者には活用できるように支援している。	現在制度や事業を活用している入居者はいないが、近親者が亡くなった入居者があり、今後の対応について検討している。	必要に応じて相談窓口を紹介するために日常生活自立支援事業に関するパンフレットの整備や学習会の開催をお願いしたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明が一方向的にならないように、利用者や家族が十分に理解・納得しているか、また不安点等を伺っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃の会話の中で、家族等では運営推進会議の中や意見箱等から、意見や要望を発し易い環境を設けている。	入居者の状況やホーム行事等を掲載したあたか便りの発行を継続し、意見等促す機会にしている。運営推進会は入居者に参加してもらったり、全家族に会議開催を案内している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望が上がれば、すぐに検討し意見の反映を行っている。	朝礼時や定例会議に率直な意見交換が行われている。申し送り内容の周知を徹底するために、介護作成担当者の提案で、ノートを職員出入り口に整備し、職員は出勤時に目を通した後に署名している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎回朝礼に参加し、職員の勤務状況を十分に把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	労働基準法に沿って労働条件を整え、採用を行い、職員の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用時の労働条件で就労している。休憩室で40分の昼休みを交互に取っている。職員の希望や状況に応じたシフトが生まれ、職員の離職がほとんどない。認知症介護実践者研修を受講した職員が今回管理者研修を受講するなど、能力を発揮できるように支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等があれば積極的に参加し、ミーティングや勉強会等で情報を共有し、入居者一人ひとりの人権を尊重できるようにしている。	今回管理者研修を受講する職員もあり、受講した人権研修をホームで伝達する予定である。	介護サービス従事者の人権研修受講は必須であるため、年間研修計画に位置づけて、実施をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、毎日職員と顔を合わせている為、一人一人のケアを十分に把握している。また、研修等には積極的に参加し、学んだ内容については、ミーティングや勉強会等で共有できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームへの研修を全職員が交代で参加し、良い点は積極的に取り入れ、サービスの質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で十分に生活状況を伺っている。また、入居に際して不安や要望等があれば全職員で話し合い、安心して生活できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談では家族等の話を十分に伺い、会話の中から入居に際しての不安や要望等がないかを感じ取り、引き出せるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりにあったサービスが提供できるよう常に柔軟な対応に心掛けている。また、必要な際には他のサービス機関に相談し、利用できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯等、出来る事は何でもお願いし、互いに支え合う共同生活者同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や一時帰宅時には、家族の絆がより深まるような手助けができるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、本人に馴染みのある場所を経由し思い出話をしながら、ドライブを楽しむ等している。	ドライブを楽しみにされている入居者がおられ、食材の買出しなど町内の道の駅を利用している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションやおやつの時間等、利用者同士が顔を合わせる時間には必ず声を掛け、自室にこもりがちにならないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームのイベントへの参加を呼び掛けたり、見舞いに行く等、その後の様子を気にかけて、これまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、希望や意向を感じ取り、無理なく心地いい暮らしができるように努めている。	入居2年目の利用者もいるが、ホーム開所時からの入居者もあり、意向の把握をしている。また、家族構成や状況、職歴、生活歴を把握し、入居者の希望や意向の把握に活かしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話では、これまでの暮らしぶりや生活環境等を質問し、一人ひとりの人生を把握できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態や生活ぶり、本人の発した言葉はそのまま日誌に記録し、全職員がいつでも把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、職員の気づき等を参考にモニタリングし、一人ひとりの現状に即した介護計画の見直しを行っている。	介護計画作成プロセスを経て、介護計画を作成している。短期目標を達成する介護サービスを、日々実施している。昨今、度々不穏状況になる入居もあり、全職員で対応に取り組んでいる。	日々のケアや入居者の反応はモニタリングや評価になることから、その内容を記載することで、チームケアに活用されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話の内容、気づきは、個別日誌に記録し、職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズには、可能な限り応えるよう柔軟な対応を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して安全な暮らしができるように、警察・消防・民生委員・地域住民等への協力体制を整えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への定期的な受診を行い、診療の様子や医師からの指示は、全職員が把握できるようにしている。状態の悪化等があれば、家族への連絡も行っている。	訪問調査日、腰痛を訴える入居者の医療機関受診を支援している。幻視のある入居者もあり、鑑別診断を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名の看護師は介護職員を兼務しており、常に個々の健康状態を把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は定期的に見舞いに行き、医師や看護師等から十分な話を伺い、現状を把握し、早期の退院支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方についての方針を定め、家族には事前説明している。また、日頃から医療機関との連携を図り、急変の際には対応できるような取り組みを行っている。	重要事項説明書に方針を明記しているが、入居期間の長い入居者も多く、家族からできるだけホームで過ごさせてほしいとの要望もある。	医師の終末期の診断に基づき、入居者や家族の要望に沿った支援をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、緊急時には落ち着いた対応ができるように、定期的な訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使用方法や夜間を想定した訓練等、消防署の協力を得た年2回の避難訓練を行っている。また消火器を設置し、全部屋にスプリンクラーを設備している。	ホームの立地や環境を考慮し、避難訓練を近々実施予定である。食料品を備蓄している。	消防署にお願いしてAEDや救急蘇生法の研修を運営推進会議の折にされてはいかがでしょうか。また、地元消防団と連携し、ホームを災害時の避難場所として申し出たり、夜警等をお願いしてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場に立って考えることで、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	社是・笑顔の心の10箇条・利用者に関わるうえでの留意点を日頃から唱和しながら、運営者は常日頃から、入居者に対する言葉かけや対応を職員に伝えている。入居者に応じた声かけや対応が訪問調査当日もあった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な話しかけではなく、会話のキャッチボールを楽しむように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分を考慮し、無理のない支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に数回、美容の日を設け、毛染めやカットを行っている。洋服等の希望があれば、家族にお願いしたり、本人と買い物に出掛けたりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で採れた季節の野菜の下ごしらえや、後片付けを職員と一緒にやるようにしている。また、イベントの一つとして定期的に外食に行っている。	入居者の状況に応じて、四方から使える流し台やテーブルを活用して、食材のしたごしらえや食器洗い、食器拭きを支援している。地域の野菜をふんだんに使った食事は、ほとんどの入居者が完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や咀嚼能力を考慮したうえで、栄養バランスを考えた献立を取り入れるようにしている。また、食事量や水分量は、記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けし、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行い、清潔を保つようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ介助を行い、排泄の失敗やおむつの使用頻度を減らすように支援している。	頻回に尿意を訴える入居者の排尿支援について、尿意の訴えがどのような状況に多いかなど職員間で検討したり、座位での排泄を支援するために、職員2人体制で関わっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分量の確保、レクリエーションや散歩で適度な運動の働きかけ等、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのその日の体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴できない入居者には清拭や排泄の失敗等があった際には、シャワー浴を行っている。	移動や移乗能力の低下で、2人体制で入浴支援をしている入居者もいる。職員の腰痛防止等の介護負担の軽減のため、入浴用のリフトを検討している。現在、入浴を拒否する入居者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、一人ひとりの体調に合わせた適度な運動を促す等して、安眠できるように支援している。また、昼寝の必要な入居者に対しては、声掛けを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況については、個別の服薬管理票で管理し、薬の変化があった際には、服薬後の様子を気にかけている。また、必要な入居者に対しては職員が直接投薬を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの力に合った家事の役割を与えたり、買物の付添い等気分転換になるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事への参加やドライブ、買物や散歩へ出かける等、単調な生活にならないように支援している。	神幸祭等の地域行事の見学に出かけたり、花見や外食に出掛けている。畑仕事が好きで入居者と、畑に出向いたり、ホーム周辺の草取りをしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、一緒に買い物に出かけ支払いまで行えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に自室で電話ができるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や制作物を飾ったり、熱帯魚の水槽を配置する等、居心地の良い空間作りをしている。	玄関や廊下は広く、空調も管理され、体操やアクティビティ、歩行訓練が和気藹々で行われている。共用空間は厨房や四方から使える流し台が設置され、テーブルで食材の下ごしらえをするなど賑やかである。畳の間もあり、置かれたソファ畳で寛ぐ入居者もいる。廊下との仕切り戸は硝子戸のため開放的で、日中は共有空間で過ごす入居者が多い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関等各所にソファや椅子を配置し、入居者の一人ひとりが、居室や居間に限らず、いつでも好きな場所で寛げるような工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、個々の生活様式にあった部屋作りをしている。また、ベッドや家具の持ち込み等で使い慣れた居心地の良い居室となるように工夫している。	入居者の心身の状況やそれまでの習慣等に沿って、和室と洋室を使い分けている。畳に直に布団をひき、毎日上げ下ろしされる入居者や、現役の折の写真をベッドの枕元に飾っている入居者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	急かさず、何事にもゆったりを個々のペースで生活できるように支援している。		